

内容へと再構築し、二〇〇七年六月に「NPO法人炭鉱の記憶推進事業団」として、炭鉱の記憶を手がかりに地域の外と内を結び取り組みをスタートさせた。炭鉱の記憶を単に残すだけではなく、活用・継承することで、歴史的意義や地域固有の価値をいかして地域再生をはかるのが目的である。先導的な取り組みや、個々の地域・団体ではなし得ないプラットフォーム的な活動、地域内外をつなぐコーディネーター役などを通じて、「空知のエンジン」を合言葉に活動を本格化させている。空知支庁が二〇〇八年度にエリアマネジメントの発想にたち策定した「産炭地域活性化戦略」の検討過程にもNPOメンバーが参画し、地域内外の人が炭鉱の記憶を通じて交流によって地域活性化をはたすという考え方をまとめた。

◇ 拠点施設完成、過去を未来につなぐ活動を積極展開

二〇〇九年八月、国の「ふるさと雇用再生特別基金事業」

による「そらち『炭鉱の記憶』活用地域ビジネス展開事業」を受託し、岩見沢にそらち炭鉱の記憶マネジメントセンターを



幌内布引アートプロジェクト／今は人が立ち入ることのない空間にオブジェがおかれた

開設し、炭鉱の記憶で地域内外を結び拠点となっている。百年前に建てられた石造りの蔵を展示スペースとし、隣接した建物に事務室と交流スペースをとっている。オープンから半年余りで利用者は一千名をこえた。元炭鉱マンがやってきて昔の話をしてくれたり、炭鉱写真展の企画の相談がもちこまれたりと利用のしかたもさまざま。炭鉱全盛期には卸売業が集積していた商店街の一角の由緒ある歴史的建造物にふさわしい雰囲気ができつつある。

NPOの活動は拠点の運営にとどまらず、多くの人が炭鉱の記憶にふれるようなプロジェクトやワークショップなどの事業にも力をいれている。

特に、二〇〇九年一〇月から一二月にかけて、三笠市の北炭幌内炭鉱の布引地区に出現したアーツインスタレーションは、これまで炭鉱と接点が無かったような学生や札幌圏の住人にもインパクトをあたえ話題となった。かつての立坑跡が閉山後周囲からおしよせる圧倒的な自然に呑み込まれていくような空間が、札幌市立大学の上遠野敏教授と学生などの手でアートによって新たに意味づけられ、多くの人の心を奪った。

今年度の取り組みとして予定しているのは、旧産炭地の空知、港湾・鉄道の小樽、鉄鋼生産の室蘭という北海道の近代産業をつくってきた三都を結んでクローズアップすること。この夏、集中的にイベントが予定されている。歴史的には強いつながりがありながら、そうした観点での取り組みは皆無だったことから、この三都物語によって、札幌圏や道内外の関心をひくと同時に、住民同士が歴史的意義と地域の成り立ちを認識し、新たな

人のつながりを生み出すことで地域活性化につなげたい考えだ。

かつて石炭が花形産業だったころ、炭鉱の町はどこも活気にあふれ、自信にあふれていたはずだが、閉山後、多くがヤマを離れ、急激な衰退のためか当時のことを「暗い」「もう過去のこと」とする人が多い中、炭鉱の記憶を活かす取り組みが徐々に根付いてきている。「炭鉱の話はしたくない」と口を閉ざしていた人が、ようやくかつての話をしてくれるようになる

と同時に、誇りを取り戻し生き生きとしている例もある。炭鉱に集まった多様な人々が時にぶつかりあいながらも支えあったコミュニティの姿は、これからの社会に示唆するものも多い。過去と未来、地域の内と外を結ぶことで新たな価値が創造される取り組みである。



炭鉱について語ってもらい、映像をiPodで配信する取り組みがすすめられている

◆ NPO法人炭鉱の記憶推進事業団

所在地 岩見沢市1条4丁目3 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

TEL 0126-2419901
WEB <http://www.soratani.com/>